

社会学系コンソーシアム・日本学術会議 第10回シンポジウム

高度経済成長期〈日本型システム〉から何を学ぶか

2018年1月27日
13:30~16:30

日本学術会議講堂
(東京メトロ千代田線
「乃木坂駅」5番出口徒歩1分)

現代社会における諸現象を考察するさい、われわれはその参照基準として、高度経済成長期を中心とした〈日本型システム〉の形成過程とその特性・問題点を位置づける。しかし現時点において、〈日本型システム〉に関する知見が共有されているとはいえない。こうした認識を前提に、〈日本型システム〉を再考することは必須の課題である。このシンポジウムでは、現代日本の諸課題にとりくむ気鋭の社会学研究者から、〈日本型システム〉の特性と問題を批判的検討・議論いただき、戦後日本史再編へとつなげたい。

開会挨拶

遠藤薫 (社会学系コンソーシアム理事長、日本学術会議社会学委員会委員長、学習院大学教授)

報告

〈戦後家族モデル〉再考

田淵六郎 (日本家族社会学会会員、上智大学教授)

労働における「日本型システム」論の反省と展望 — 高度経済成長期の位置づけを中心に —
中川宗人 (関東社会学会会員、東京大学社会科学研究所特任研究員)

カリキュラム政策の変遷における高度経済成長期の位置
岡本智周 (日本社会学史学会会員、筑波大学准教授)

「家族丸抱え」から「施設丸投げ」へ — 日本型“残余”福祉の形成史 —
竹端寛 (日本社会福祉学会会員、山梨学院大学教授)

高度成長期における地域生活・労働連帯の浸食
中澤秀雄 (地域社会学会会員、中央大学教授)

討論者

今田高俊 (日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授)

山田真茂留 (日本学術会議連携会員、早稲田大学教授)

オーガナイザー・司会

嶋崎尚子 (社会学系コンソーシアム理事、早稲田大学教授)

岡田勇 (社会学系コンソーシアム理事、創価大学准教授)

閉会挨拶

野宮大志郎 (日本学術会議フューチャー・ソシオロジー分科会委員、中央大学教授)

主催：社会学系コンソーシアム、日本学術会議社会学委員会フューチャー・ソシオロジー分科会
お問い合わせ：社会学系コンソーシアム事務局 socconsortium@socconso.com

※参加費・事前申し込みは不要です